

わが家の耐震補強を考えている人に

わが家の耐震性について不安がある人は、専門家に相談していただく必要があります。

県では建築物の「地震相談窓口」を設けており、(詳しくは裏表紙参照)ここでは、簡単な耐震診断にも応じております。(簡単な平面図が必要です。)

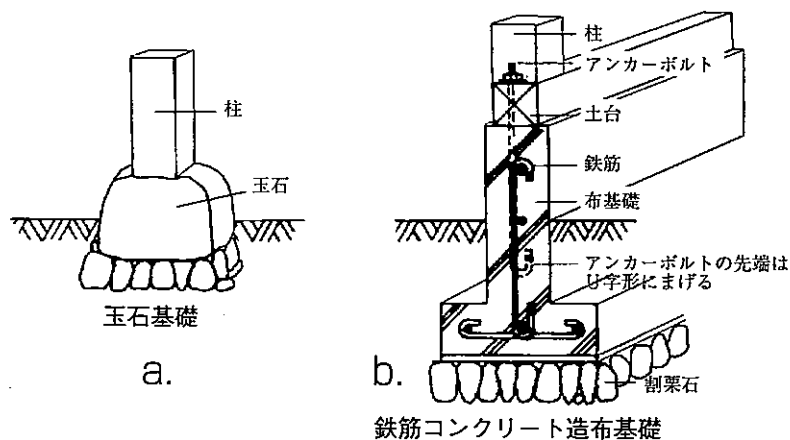
補強が必要な場合には、ここに示すように、いくつかの補強方法が考えられますので専門家に相談してください。

1

玉石基礎などの場合は、鉄筋コンクリート造の布基礎に替え、これに土台をアンカーボルトで締めつけます。

a.玉石に束立てしただけの柱は、浮き上がったり踏み外したりして、建物が壊れることがあります。

b.鉄筋コンクリート造の布基礎を作りアンカーボルトをつけて下さい。

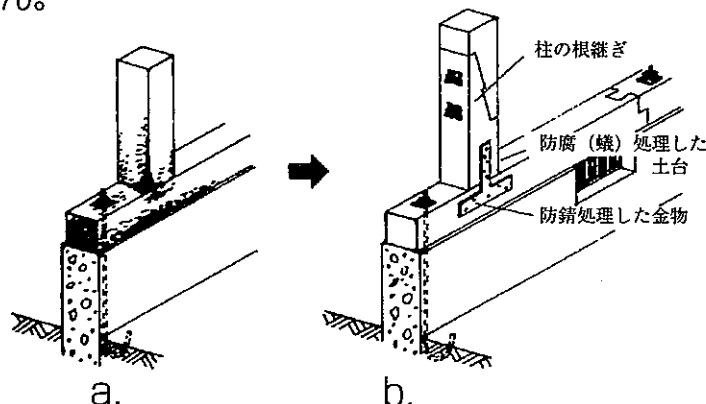


2

腐ったり、シロアリに食われた部材は取替えます。

a.特に、台所・浴室の近くや北側の土台まわりのように湿りがちのところは早く腐ります。

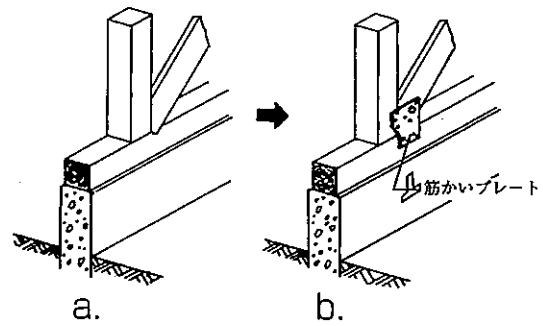
b.土台を取替え、柱は根継ぎして金物で補強して下さい。この場合、防腐(防蟻)措置を忘れてはなりません。



3

土台・柱・筋かいなどの接合は金物等を使って堅固にします。

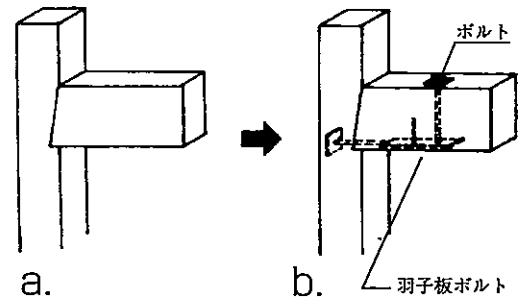
- a. ほぼ差しや胴付け、またはくぎ止めだけの接合部は、抜けたり、はずれたりします。
- b. 柱と土台は金物等で結びつけて下さい。筋かいと柱(または土台、はり)は、十分にくぎまたは専用の金物で止めて下さい。



4

柱・はりの接合は金物等を使って堅固にします。

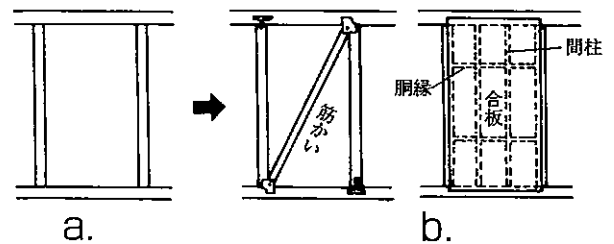
- a. ほぼ差しだけの柱、はりの仕口は、ほぞが折れたり、抜けたりして骨組がばらばらになりがちです。
- b. はりの下端を羽子板ボルトで引き止め、抜け落ちないようにして下さい。



5

筋かいを入れたり、構造用合板を張って強い壁を増やします。

- a. 柱、はりだけでは地震の力に抵抗できません。
- b. 筋かいを入れるか、または、構造用合板(厚いほど有効)を柱、土台、はり・胴差、間柱・胴縁に十分にくぎ打ちして下さい。



6

壁の量を増やし、かつ、つりあいをよく配置します。

- a. 開口部(ガラス戸など)が多いほど地震に弱くなります。
- b. 開口部を減らし、筋かいや構造用合板で補強された壁を増やして下さい。隅部を壁にすると一層効果的となります。

